

ちごの空寝 (『宇治拾遺物語』)

『宇治拾遺物語』は鎌倉時代の代表的な説話集です。13世紀前半の成立と
言われています。作者については諸説ありますが、はっきりしていません。収め
られている説話の数は196話で、その内容は仏教的なものも民間伝承的なも
のもあり、バラエティに富んでいます。

テキストの「ちごの空寝」は、『宇治拾遺物語』巻第一の第十二話で、「児ノ
カイ餅スルニ空寝シタル事」という題の説話です。当時の寺には稚児と呼ばれ
る寺の雑用をする少年がいました。ここでは、比叡の山に稚児がいた、と書い
てありますので、比叡山にある延暦寺の稚児の話でしょう。坊さんたちが夜の
暇つぶしに「かいもちひ」をする、つまりぼた餅を作るというのも面白いです
が、それを耳にした稚児が、どうすれば「寝ないで待っていた」と思われな
いのでぼた餅を分けてもらえるかと思案して、結局失敗するというのが笑い
話になっています。

現代人の目で読むと不思議なのは、坊さんたちが稚児に対して敬語を使っ
ていることです。これについては、当時の寺の稚児の中には貴族の子弟も多かっ
たことから、この稚児も高貴な家の出身だったのではないかとされています。

本文の出典：

小林保治・増古和子 校注／訳 『宇治拾遺物語』 (新編日本古典文学全集50)

小学館、1996年